

論文の内容の要旨

論文題目：「エネルギー安全保障をめぐる東アジアの国際政治」

氏名：アディオレ, エマニュエル

論文の内容と要旨

論文題目：エネルギー安全保障をめぐる東アジアの国際政治

氏名：アデオレ, エマニュエル

エネルギー安全保障は東アジアにおける国際関係の重要な一部である。この研究においてエネルギー安全保障という言葉は、経済の持続的発展のために必要なエネルギー資源を合理的価格で安定的に入手できることを意味するために使われるものとする。また、この言葉はエネルギー利用のもたらす結果から環境を保護するための適切な手段を講ずることをも意味する。

本研究では、特に集団的なエネルギー安全保障および東アジアにおける多数国家間の協力一般の問題に焦点をあわせ、この地域におけるエネルギー安全保障政策の性質を探ることによって東アジアにおける国際関係を検討した。

本論文においては、エネルギー安全保障が国際関係に多様な含意を持つということが主張されている。エネルギー安全保障は一方において国家間関係を緊張させる原因となりうるものであるが、他方においては、多数国家間の協力の重要な機会となる可能性を持っている。本研究は、国際関係にとってエネルギー安全保障が有している後者の含意に焦点をあわせ、エネルギー安全保障が東アジアにおいて提供している多数国家間協力の可能性について検討したものである。

本論文は、まず、東アジアにおいて集団行動をとるための基礎的な制度の発展の促進に関してエネルギー安全保障が有する可能性について検討した。言い換えれば、集団的エネルギー安全保障がどのように東アジアにおける多数国家間協力の形としてたちあられうるかを探求し、さらに、東アジアにおける多数国家間協力に関する一般的な問題の一環あるいは一部分としての集団的エネルギー安全保障にまつわる困難について説明した。この多数国家間協力の困難性については、本論文は東アジア内部におけるダイナミクスと、国際政治の役割という二つの重要な要因から受ける影響の観点から説明を行った。東アジアの内部的ダイナミクスについては、東アジアにおける過去の歴史的関係を主要な要因として特定した。さらに、この論文は東アジアにおける国際関係について国際政治が果たしている役割についても検討を加え、特に、東アジアにおいて強い影響力を保持してきた大国の間で利害関係が多様であって一致しないことを、この地域における多数国家間協力の問題に寄与している要因として挙げた。

本論文は、大きく分けて9つの章からなっている。

第1章は、国際協力についての理論的な概観を行っている。この章は、続く章における東アジアの集団的エネルギー安全保障の研究の理論的基礎をなすものである。第2章から第5章までは、この研究において東アジアとして定義された範疇に入る国それぞれにおける、エネルギー安全保障の状況について検討する。この定義には、日本、中華人民共和国、朝鮮

民主主義人民共和国、大韓民国および台湾が含まれる。

第2章においては、日本におけるエネルギー安全保障の状況と、それが東アジアにおける集団的エネルギー安全保障に与える含意が検討される。この章においては、日本が他の東アジアの国々と共通してエネルギー集団保障について利益を持つ重要な領域が同定される。それは、国内的なエネルギー資源の欠如、エネルギーの輸入における中東への依存、および日本へエネルギー資源を輸送する経路として共通の海路を利用することといったものを含む。この章では、これらの顕著な要因が日本のエネルギー安全保障外交において非常に重要な役割を果たしていると主張される。これらの要因は従って、東アジアにおける集団的エネルギー安全保障の重要な基礎となるのである。

第3章では中華人民共和国におけるエネルギー安全保障の状況およびそれが東アジアの国際政治に対して有する含意を検討する。この章では、中国のエネルギー安全保障外交は国際関係一般について重要な意味を持っていると主張される。急速な経済発展は、中国におけるエネルギー安全保障の状況を複雑化させるものと主張される。経済発展は、中国のエネルギー安全保障外交および東アジアの国際関係に大きく影響を与えるであろう。この章は特に、中国が増大するエネルギー需要に応えるためにエネルギーの輸入に依存するようになってきていることを指摘する。そしてさらに、中東における中国のプレゼンスが東アジアおよび国際関係双方にもつ意味について検討が加えられる。この章では、中国がエネルギー安全保障に関して中東に依存していることは、東アジア全体について深刻なエネルギー安全保障問題を引き起こすとの説明がなされる。しかし、このことは東アジアにおける協力の重要な契機を指し示すものである。なぜなら中国は東アジアにおけるエネルギー安全保障に共通の問題に対して影響を被ることになるであろうからである。さらに、東アジアの経済的相互依存の結果、中国のエネルギー安全保障政策がむしろこの地域における多数国家間協力の重要な要因となるということは確実であろう。

第4章は、南北朝鮮におけるエネルギー安全保障の状況について考察している。この章では、東アジアのエネルギー安全保障に対して有する意味という観点から、南北朝鮮の国際関係が検討される。この章の最初の部分では、韓国がエネルギー輸入への依存度を強めていることと、そのことが東アジアのエネルギー安全保障政策に対して有する意味について検討している。この章はまた、近年における両朝鮮のあいだでの国際関係の進展が、いかにしてエネルギー安全保障に関し朝鮮半島において“軍事的準備”の重要性を低下させることになりうるかについて説明している。本研究では、この国際関係の進展が、東アジアにおいて協力を通じてエネルギー問題の管理への道を開く可能性があることを説明している。北朝鮮に関しては、本研究は、その核外交と中東におけるそのエネルギー資源を求めての北朝鮮の存在を東アジアにおける主要なエネルギー安全保障問題として指摘する。本研究は、朝鮮半島エネルギー開発機構(KEDO)の設立に見られるような北朝鮮のエネルギー安全保障外交に対する多数国間による対応は、多数国間エネルギー協力は東アジアにおいてに実行可能であることを示す主要な実例であることを説明している。

第5章では、本研究は、台湾におけるエネルギー安全保障の状況とその東アジアにおける国際関係への含意を検討している。本章では、東アジアにおける共通のエネルギー輸送ルート上に存在するという台湾の戦略的位置が東アジアのエネルギー安全保障の主要な関心として指摘される。加えて、本章では、極東ロシアのエネルギー資源とその東アジアエネルギー安全保障への含意も検討される。極東アジアの東アジアへの近接性とその豊富なエネルギー資源の存在は、同地域の東アジアエネルギー安全保障への重要性を示している。またそれは同時にロシアの対東アジア関係の重要な要素を形成している。しかし極東ロシアにおけるエネルギー資源開発に要する多額な費用の存在は、その開発が協力を通じてのみ達成されることを示している。本章は、東アジア諸国間の諸資源の結合が、極東ロシアのエネルギー開発の唯一の有望な選択肢であるように見えることを論じている。被害アジア各国による資本・技術・労働・エネルギー市場・政治的善意の提供があつて、極東ロシアにおけるエネルギー資源開発が初めて可能となる。またこの協力があつて、極東ロシアのエネルギー資源が東アジアの中東のエネルギーへの依存を減少させることが初めて可能ともなるのである。

第6章から第8章まででは、東アジアにおける集団的エネルギー安全保障問題を実証的に検討している。第一に第6章では、東アジアにおけるエネルギー安全保障に関する共通問題を指摘し、議論している。まだこれら共通エネルギー問題の東アジア国際関係への含意をも検討している。本章では、特に共通のエネルギー海上輸送路の使用が、東アジアのエネルギー安全保障と国際関係へ及ぼす影響を説明している。加えて、本章は、エネルギー安全保障政治が、沈静化していた領土問題や核拡散問題や環境問題を東アジア国際関係に置いて復活させる可能性をも論じている。

第7章では、現在及び過去の、東アジアと世界の他の地域のエネルギー安全保障取り決めの歴史につき概観した。本章では特に、東アジアが世界の他の地域のエネルギー安全保障取り決めから引き出しうる教訓に焦点が当てられた。また本章では、東アジアにおける二国間エネルギー安全保障取り決めの優越性についても説明が加えられた。

第8章では、東アジアにおける集団的エネルギー安全保障と多数国間協力の問題が検討された。東アジアにおける内部的なダイナミクスと国際政治の役割の観点より、東アジアにおける集団的エネルギー安全保障と多数国間協力の困難性が説明された。本章では、単に東アジア国際関係における集団的エネルギー安全保障取り決めだけではなく、いわゆる東アジア国際関係における協力の不存在をも説明するために、上記の2つの要因の相互作用がどのように使用されるかが説明された。

第9章では、東アジアにおけるエネルギー安全保障研究の結論が示される。第一にここでは、東アジアにおける集団的エネルギー安全保障の将来性が検討される。また世界の他の場所が、東アジアにおけるエネルギー安全保障政治から引き出すことのできるであろう教訓についても指摘される。最後に、本研究の主要な発見が提示され、また東アジア国際政治研究と国際関係一般の研究への本研究の含意の再検討がなされる。